# 令和６年度第１回高知県スポーツ振興県民会議　議事要旨

日時：令和６年６月７日（金）13:30～15:00
場所：高知県庁　正庁ホール
出席：委員 24 名中 15 名が出席
出席委員：青木会長、井奥副会長
　　大坪委員、尾下委員、刈谷委員、須内委員、田井委員、竹島委員、武市委員、
　　常行委員、寺村委員、長岡委員、濵田委員、前田委員、矢野委員
専門的知見を有する者：笹岡貴文、甫喜本博貴、須賀昌彦、深見英治

議事：（１）令和６年度スポーツ施策の取組状況について
　　（２）今後の強化に向けた課題について

## １　開会

**知事挨拶**

本日は、今年度第１回目の高知県スポーツ振興県民会議の会合ということで、各委員にはご多用の中お繰り合わせのうえご参加いただき感謝申し上げる。また、常日頃本県のスポーツの振興に向けて、何かとご指導、ご鞭撻、またお力添えをいただいていることをこの場をお借りして感謝申し上げる。

本年は４年に１回のオリンピックイヤーということで、パリのオリンピック・パラリンピックもあと２ヶ月程度というところまで近づいてきている。先だっては本県からレスリングに出場する櫻井選手、清岡選手の壮行会も行われ、多くの本県出身あるいはゆかりのある選手がオリンピック・パラリンピックで活躍、メダル獲得も大いに期待できるということで、本県が長年取り組んできた競技力の向上が１つの成果を挙げてきつつあるということを実感している。

また、本年度は、県のスポーツ行政も新しい体制で推進する。昨年度までは文化行政と一緒に行ってきたが、今年度から観光振興スポーツ部として、スポーツの振興、スポーツツーリズムの振興を２課体制で立体的に実施をしていく。特にスポーツを通じた地域活性化への貢献というところに重点をおいてさらに展開をしていきたい。

そうした中で、本年は第３期のスポーツ推進計画の２年目に入ることになる。本日は年度初めの会議ということで、推進計画に基づく６年度の主要な取り組みの状況、今後の課題として認識している事項についてご説明申し上げて、委員の皆様からのご意見を頂戴したい。

併せて、桟橋通りにある県民体育館が開設から 50 年を迎え、施設の老朽化も見られる。そろそろ再整備をしなければいけない時期ではないかということで、今年度検討会を立ち上げて再整備のあり方について議論をしていく。概略を本日ご説明させていただき、委員の皆

様の立場からのご意見を本日承らせていただければと思う。
本日は限られた時間ですが、議題について皆様の忌憚のないご意見をいただき、本県のスポーツ振興を更に力強く前に進めていきたいと思う。

**副会長の選任**
欠員となっている副会長１名に高知県市長会　会長　桑名龍吾氏を提案し、出席委員全員から異議がないことを確認した。

**青木会長挨拶**
今年はオリンピックイヤーということで、7月26日パリでオリンピックパラリンピック開会式がある。先日、櫻井選手と、清岡選手の壮行会があった。日本の代表団ということは、金メダルの候補になるということ。そういう意味では、大変我々に勇気を与えるような出来事。本日の資料に、オリンピック・パラリンピックに高知県の代表として参加する選手の名前が載っている。オリンピックには、先ほど言ったレスリングの２人、そしてビーチバレーの審判員として１人参加をすることになっている。パラリンピックの方では、カヌーや円盤投げ、或いはバドミントン。その３人と、あと池選手は間違いなく内定すると思う。パラリンピックには４人も出場するということで、単に喜んでいるばかりではなく、スポーツの意義を再確認するとともに、高知県として盛り上げていくことが大事。
これまでの国体が、国民スポーツ大会という名称に変わる。今年は佐賀県で開催され、78回目となる。国民スポーツ大会の意義の見直しがされるようで、廃止も含めて考えるという議論がなされるようだ。、そういった尖った議論も必要なことだというふうに思うが、やはりスポーツの高みを目指すことへの挑戦に大きな意味があると思う。
もう１点、スポーツ庁が、2008年度から実施している小学５年生と中学校２年生を対象にした体力テスト。これが始まった2008年度は、高知県は残念ながら最下位に沈んでいた。それが2023年には、改善率が全国２位、そして全国の順位も18位まで向上している。これも、県教委が様々なプログラムを講じて、遊ぶ、楽しむ、そういったことも含めて取り組んだ結果だと思う。そのことによって子どもたちがスポーツを楽しむ、興味を持つという意味では大変意義のあること。
スポーツというのは、私たちに活力を与えてくれる、或いは子どもたちの心身の教育の発展にも寄与する。ピンポン外交で有名な荻村さんが、なぜ卓球を強化をして世界一を目指したという意義づけについて述べております。それはやはり世界で１番になるということは世界が注目をしてくる。つまり、スポーツの向こう側にあるスポーツを越えるものを目指しているということを言っておりました。単に強くするという向こうには、やはり分断や格差、そういったものを超越して、夢や希望を与えてくれる、そういった効果もあるのではないかというように思う。そういう意味では、勝つことの意義ということを問い続けていくことも大事なことではないだろうかというふうに思う。

スポーツを通じて、人と人、人と地域と社会、そういったつながりが地域社会の充実に貢献していくのではないかと期待している。高知県のさらなるスポーツの盛り上がりや充実に向けて、私たちも意見を出し合って効果的な取り組みにつなげていく必要がある。
本日は今年度の１回目の県民会議。今年度の取り組みの進捗状況と来年度の施策の強化の方向性についてご意見をいただき、活発な議論をお願いする。

## ２　議事

議事（１）（２）について、資料１、資料 3-1、3-2 及び資料４を使用して説明。
資料２については時間の都合上説明を割愛。

●武市委員
高知県の貧困率、市町村の貧困率、それと市町村のスポーツ推進計画を高知県として、どのような形で分析し、市町村の推進計画は何市町村までできているのか、そういう把握はできているか。

○事務局
市町村における推進計画については、詳細に把握はできていない。高知市が計画を新たに改定したということはお聞きしているが、その他の市町村については、現在どのような状況かというところは把握をしていない。全体的な計画の中にスポーツの取り組みが盛り込まれているという市町村が多いと思う。

●武市委員
いま私たちは部活動の地域移行に取り組んでいるが、いわゆる貧困家庭、経済負担、市町村においてどういう状況なのか。私としては義務教育課程の子どもたちにできるだけ今までどおり経済的負担がない形でスポーツをさせてあげたい、取り組んでもらいたい。今、ただでさえ部活動の稼働率が下がっている中、スポーツや文化に携わる子どもたちが減っていくと、全体的なことでいえば日本一の健康長寿県構想にもつながっていく過程でどうなのかなということも感じます。是非そういったデータも私たちに共有していただき、各市町村の総合型地域スポーツクラブにそういう話もしていきながら取り組んでいく方向性を考えたいと思うのでよろしくお願いします。

○事務局
資料３－２の④、子どものスポーツ環境づくりについて取り組んでいる市町村の数、ここは先ほど説明した県の補助事業を活用して取り組んでいただいている市町村数を示している。今年度、19 市町村が活用いただけることになっており、この取り組みも含めて、すべての市町村と定期的に意見交換をさせていただいている。

その内容などについて、先ほど武市委員からご指摘もあったように、可能な範囲で、市町村の状況を分析し、必要なものはデータとしてお示ししたいと思う。

●前田委員
ちょっと違った観点から少しお伺いしたいのは、観光振興スポーツ部に変わるというところ。昨年度、発言させていただいたと記憶しているが、どういったところまでスポーツの枠組みとして捉えていくかが気になっている。要は、レジャー的なものとか、レクリエーション的なところも含めて今スポーツだというような形をとろうとしているのが全国的な流れなのかなと思う。ツーリズムとか県の活性化をもとにしながら、例えばスポーツ参加の拡大っていう部分につなげていったり、稼いだものが落ちていくような仕組みっていうのをどう作られていくのか。ツーリズムの観点でどう捉えていくか、ということと、それをスポーツの普及とかそういった面にどうつなげていくのかというのをお聞かせいただきたい。

○事務局
スポーツをどう捉えるかというところについてはなかなか線引きが難しいが、レジャー的なものも含めて、幅広くスポーツという風に捉えていきたいと思っている。アンテナを広くとって、レジャーも含めてスポーツと捉えたうえで、スポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげていきたいというふうに思っている。
これまでもプロスポーツのキャンプ、また、高知龍馬マラソンなどでの誘客を行ってきた。さらにそれを、地域や競技団体のスポーツ活動にしっかりと情報提供したり、龍馬マラソンの中でボランティアの育成をしっかりしていく。そうしたツーリズム効果を、スポーツ参加の拡大、競技力の向上に繋げていくことが今後意識していくことだと捉えている。

●前田委員
全体的にそういったマラソン大会などは本当に全国で行われてると思うし、サイクリングについてもいろんなところで行われていると思うので、高知県の魅力っていうのを考えた時に、高齢者の方々が多いことから、高齢者同士の交流が生まれるようなものもあっていいと思うし、そういった視点でもう少し他の県と違うところを見いだせたらいいんじゃないかなと思う。

●矢野委員
私は競技力向上の部会に所属しているので、そちらからの意見をさせていただきたいと思う。スポーツ選手、本県出身の選手たちがどんどん活躍して、そして全国レベル、国際レベルの選手が増えてきた。この競技力の向上というのは非常に県民にとっても嬉しいところだが、競技力向上のところにも書かれているように、その選手たちがある程度現役生活を終えた後に、どんなふうにして彼らの受け入れ先を確保するか、これがすごく重要なポイント

だと思う。
私が考えるに、部活動の地域移行、地域連携のことがでているので、その時の中心のメンバーになれるような、そんなポジションで戻ってきてもらえるような環境作りができないだろうかと思っている。例えば企業がそういう方を抱えるというようなことがよく話にでてくるが、なかなか本県の場合大きな企業がそれほど多くないといった状況がある。新潟アルビレックスがやっているやり方として、いくつかの企業で１人の選手を雇用するというような事例もある。社会人として、或いは教員として高知に戻すというような考え方もあり、その選手が指導者となって次の世代を育てる、というようなやり方もあろうかと思う。まずはその枠組みを提案して、こういうふうな枠組みがあるので、ぜひ高知に戻りたいという人は前もって意思表示をしてほしいというような、話を具体的にできればいいと思う。
私自身メンタルサポートに関わって10年ぐらい経ち、小学生だった子どもたちが今オリンピックで活躍するような年代になっている。これはもう本県が長いスパンで取り組んできた成果だと思うので嬉しく感じている。今度はその子どもたちがどうやって高知に戻ってくるか、次の世代をどんなふうにして育てるか、というところに来ているのではないかと考える。

○事務局
県内企業などへのアスリートや指導者の受入については、仕組みを構築することと、スポーツ課が窓口となってサポートしていきたいと思っている。また企業の方にも、いろいろとご協力を求めつつ、複数の企業が１つのチームを支えるという事例もあるので、アスリート、指導者、当事者のほか、県内の企業の方にも情報提供する中でそういった形が新たにできればと思っているので、丁寧に進めていく。

●寺村委員
子どもたちのマッチングプログラムはすごく前向きで嬉しいと思っている。４歳の子どもは、だいたい下にも子どもがいるので、できたら乳幼児もできるものがあれば、もっと親子の参加も増えるのかなと思う。
また、子育て支援課がやっているるんだパスというポイントが貯まる制度があるので、そういったものと紐づけると、ポイントを集めたりするお得感というものが出る。是非そういった活動にも、県として取り組んでいただけると良いと思う。
小学生はコロナ禍３年間という時期をほとんど体を動かすことがなく来ている。運動会は、前は１日あったが、今は小学校は半日の開催。しかも５月ゴールデンウィーク明けに開催されることが多く、競技種目が走るものだけであったりする。運動で学べる様々な課題であったり、力を合わせて何かをするという経験自体、できる機会が少ないということは問題点じゃないかと思う。体力面だけではなくて、子どもの心と体の育成をしていくことは、教育の中でしっかり考えておいていただきたい。子どもたちはいろいろなものを見る機会、本物

を見る機会が少ないので、ユナイテッドの試合に遠足で行くのはどうかなと。日曜日に限られるかもしれないが、バスも停めやすいし、応援だけれども大声を出すことができる。せっかくの機会を活用できるような方法を、ぜひ教育委員会も含めて考えていただけたらいいと思っている。

○事務局
マッチングプログラムについてはまた関係の部局としっかりと連携をして対応をしていきたい。
子どものスポーツ機会については本当におっしゃる通りだと思う。学校だけでは対応が難しいと思うので、教育委員会とも話をさせていただいて、当然、地域の実情に応じた対応が必要なので、市町村の話をしっかりお聞きしたうえで、県としてどのような提供ができるのかをしっかり考えていきたい。

●須内委員
今の学習指導要領の中で、保健体育の授業は、ただスポーツをするだけでなく、見るとか、関わるとか、そういう視点でも授業づくりを進めているところ。例えば寺村委員がおっしゃったような遠足の機会とか、本物の選手の方がされてる競技を観戦するということなどもすごく参考になると思う。ぜひ校長会等の場でも紹介したいと思う。
運動会について、熱中症等のこともあり、私の勤務校は9月の第2週ぐらいに予定している。おそらく30度以上の猛暑の中で1日中やるとなると、非常に体力を消耗して危険度も増すような状況もあるので、バランスを考えながらやっていきたい。学校体育は、心拍数を上げる取り組みが必要というような話もあり、そこら辺のバランスも考えながら、いいものにしていきたいと思う。スポーツや、運動の習慣をもつことは大事だと思う。
部活動の地域移行のことについては、やはり指導者。選手が育ってまたこちらへ帰ってきて、部活動の指導者でその方が活きるという発想、とてもありがたいと思う。高知県は東京や大阪のように人がたくさんいないので、指導者がなかなか確保できない。できるだけスポーツを指導してくださる方の育成、そういったことの広まりを求めていきたいと思う。

●長岡委員
高校も、部活動の指導員は、非常に人材がいなくて困っているところ。特に中山間地域等は、そういう部活動指導員といった専門の方がいるところが非常に少ないので、そういった方が育成されて、指導者バンクなどがあると大変ありがたいと思う。
運動が好きな子どもの割合というところで、中学校の実績が伸びなかったというお話があったと思うが、一方で、全国的には体力の改善っていうのはされているけどもスポーツが好きだと思う割合があまり上がってなかったっていうのはなにか関連があるのか。

○事務局
関連性というところまで分析ができていないが、体力向上していることについては非常に良い傾向だと思う。運動が好きという子どもの割合が増えていくことは非常に大事だと思っており、自ら運動に参加していこうというところに繋がっていくと思う。体力とは別に、子どもの運動習慣の数値も出ており、1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合というのは全国と比べて数値が良くない状況。
そうしたところも、運動が好きということと連動してくると思うので、運動習慣が定着をしていくことは非常に大事と思っている。体力ももちろん大事だが、そこにつなげていくためにマッチングプログラムであるとか、学校でのいろんな取り組み、そうした取り組みを充実させていく必要があると思う。

○教育委員会
体力の合計点でいうと、平成30年度ぐらいまでは全国的に全部上がっていた。それから令和元年度に全国的に落ち始め、コロナでさらに落ちている。昨年度、中学校女子を除いては、横ばい或いは上昇傾向に入っていったと言われている。中学校2年生の女子だけが下がり続けていることが起きており、中2の子は小学校の高学年頃にコロナに入ってしまい、集団でやるようなスポーツとかに一定制限がかかっている。やはりそういうことの影響が出ているんじゃないかと思う。また、運動することの楽しさや、一緒にやることができてない。このことについては先日の中学校の体育主任会あたりで説明をし、各学校でこういうことに対してちゃんと徹底して対応してくださいというようなお願いをしており、これで少し改善していけばと思っている。

●竹島委員
今後の強化に向けた課題の、課題1で、やはり子どもがスポーツを始める、続ける、そして地域の協力者を掘り起こすというところは重要。くろしおキッズを始めた当初から関わっているが、くろしおキッズは、親御さんが送り迎えする。子どもたちを見ているだけでは、親御さんたちも楽しくないかもしれないといった意見が出て、親子で楽しめるスポーツなんかを取り入れたらどうかという意見がある。
親御さんたちが地域に戻って、そしてまたスポーツの良さをＰＲしてくれたり、地域で子どもたちをスポーツで育てていくことが広まっていければいいと思う。

○事務局
保護者の関わり、意識を高めていただくというところ、非常に大事だと思っているので、今年度、くろしおキッズの取り組み以外の部分でも、保護者にご参加をいただける取り組みを進めようとしている。くろしおキッズの中でも、保護者プログラムもあるが、それ以外になんらか保護者が関われるようなものを検討したい。

●竹島委員
大阪体育大学と連携して、指導や、向こうに行ったりして活動していると思う。それを参考に、県の方で、小学校中学校高校大学の連携をもう少しやっていけば、盛り上がるんじゃないかと思う。

○事務局
幅広くとなると一気にできないかもしれないが、現状も大学生にはいろいろと地域の活動にも関わっていただいてる。大学の先生方に相談し、学生がより地域に関わってるいける機会や、大学生同士の交流も広げていきたいと思う。

●濵田委員
数年前から指導要領でもあまり競争させたらいけないみたいになっている。運動会でも、順位をつけるより、参加すること、楽しくやるというようなことがあります。小学生だったら楽しいでいいかもしれないが、中学生になると、青木会長も言われたように、記録に挑戦したり、達成感を得られたりした方がもっとそのスポーツが好きになったりということがあると思う。運動会も、速い人は速い人で走らすというような時期もあった。やはりそうすると順位もつかないし、ただ楽しいで終わってしまう。そういうのがスポーツが好きな子どもの割合にでてきているのではないかと勝手に思っている。やはり、もう少し記録にも挑戦したり、数字を出して挑戦させるようなことをしていった方が、成果も上がるのではないかと思う。

○事務局
高みを目指していくというところはスポーツを行ううえで、また周りのものがスポーツを意識するうえでは非常に大事なことだと思うので、そこは競技団体の方で取り組まれていることも大事にしつつ、県の方も情報発信というところをしっかり行っていかなければならないと感じた。
また、運動が好きな子どもの割合のところについては、中学生の男子が下がっている原因がわからないが、全体の中では中学生の女子が非常に低い数字。地域の方でいろいろアンケートをとると、ダンスに興味があるという数字も出ているので、県としてもダンスの取り組みなどもしっかりと各地域で提供する取り組みを進めている。裾野を広げる、好きなことを広げるというところも、一定大事な部分なので、そこの両面をしっかりとアプローチしていく。

●尾下委員
財団では、春野総合運動公園、県民体育館、武道館、弓道場、スポーツ科学センター、5つの施設の管理運営を任せていただいている。そのうち、県民体育館は開館から51年目を迎

えており、耐用年数を超えた施設になっている。先日も、台風並みの雨が降ったときには、各所で雨漏りがあり、利用者にもご迷惑をおかけしている状況。昨年度、プールの改修工事を行い、3ヶ月ほど休館した。休館明けて再開後、利用者の動きを見ると、特に高齢者の方、朝のお得意さんの数が随分減っていた。というのは、一定期間運動をやめてしまうと、再び運動することがなかなか難しいといったようなこと。施設を閉めることも、ダメージが現れてきている。
指定管理者としては、当たり前のことだが利用者の方に良好な環境を提供することは大事なことなので、県民体育館についても、多機能な施設として改築、改修のご検討を進めていただきたいと思っている。
定員が4600人の施設というのは県下最大級。ただコンサートをやるには、音響が備わっていないので、そういうことも備えたようなものを望む。桟橋通りがすごくいい場所なので、再建していただくということが望ましい姿ではないかと思っている。

○事務局
特に県民体育館については、ご説明があったように非常に幅広い方にご利用いただいている。今後の整備の検討にあたっては、幅広いご意見を丁寧にお聞きしながら検討を進めていきたいと思う。検討状況についても、この会議で進捗状況の説明をさせていただく。

●深見氏
スポンサーでユナイテッドの応援をしている。春野球場はどうしてもやる側、見る側、応援する側、家族には親切ではない環境にあるんじゃないかと思う。新潟アルビレックスは、駅から皆さん歩いて行く。それがすごく大事なこと。いまの春野球場では、高知駅から歩いていけというのは無理な話。県民体育館を含めて、作られるときにはそういったところも配慮が必要。というのも、やはり少子高齢化になってきて、応援するおじいちゃんおばあちゃんが免許返納となり、家族で応援する機会がなくなっている。春野球場の今ある環境で、例えばバスの運行便数を増やすといったようなことを、県の方のみならず、私ども企業が連携して広げていくのが大事だと日々感じているので一緒に頑張っていきたい。

●須賀氏
資料4、県民体育館について、これからいろんな検討会をやられると思うが、ぜひそのスポーツの観点以外にも、防災の観点でも考えていただきたい。あの場所は津波の被害も想定される。第一次の被害にあった方が避難されるとか、いろんな多機能な形でスポーツ施設を使えるようにしたらいいんじゃないかと思う。
これから温暖化により屋外でスポーツをすることがなかなか厳しくなるんだったら、屋内施設が代替手段になるので、屋外のスポーツもできるような施設で考えたらどうかと思っている。

もう1点は、サイクルツーリズム。今治の例として、しまなみ街道をたくさんの方がサイクリングされている。四国では今治のしまなみ街道が一番有名だと思うが、高知にも香川にも徳島にもある。どこの県もサイクルツーリズムが注目されてると思うので、高知県だけではなく、四国全体でサイクルツーリズムをどう進めていくかという観点で取り組めばいいんじゃないかと思う。
四国には四国ツーリズム創造機構もあって、四国全体の観光をどうするかという動きはあるし、弊行でも、四国アライアンスの観光部会で四国のサイクルツーリズムを進めていこうという研究会をやっているので、そういったところともうまくコラボして、積極的に進めていっていただけたらと思う。

○事務局
施設整備につきましては多分野の視点で整備を検討していきたい。
サイクルツーリズムについては、今四国4県が連携し、四国ツーリズム創造機構や、四国アライアンスの皆様と一緒になって協議会を立ち上げ、例えば四国一周サイクリングツーリズムというインバウンドの誘致ということで取り組んでいるところ。

●田井委員
高知ユナイテッドの試合のハーフタイムにキッズが踊りに行っている。そのときに感じるのが、あまり観客がいないこと。たくさんキッチンカーもきているし、もう少し宣伝があったらいいと思う。
キッズもせっかく行っているのに、あまり見にきてくれる人もいないのと、キッチンカーの人もたくさん来ているのにあまり売れてないみたいなとこもあるので、メディアが触れてないんじゃないかというイメージがあり、私達の中では盛り上がってるんですけども、全体的にはちょっと盛り上がりが少ない印象がある。
それと別件で、障害者の方のスポーツについて、今年障害者スポーツセンターと一緒にユニバーサルスポーツを行うということで、ボッチャ大会をうちのクラブで行う段取りをしている。競技性のある人ばかりがクローズアップされているので、日高特別支援学校との連携をずっとクラブ単独で続けているが、なかなか予算面が厳しい。
今年もバドミントンの指導をしてもらいたいとか、いろいろな依頼もあり、なるべく応えるようにしたい。あと、裾野を広げるというところで皆さんにできるスポーツ環境的なところに少し着目をしてもらえたらいいと思う。例えば土佐市の中学校で車椅子バスケの体験会をしているので、これからも続けていきたいと思う。
地域部活について、今年から高岡中学校のバドミントン部が大会に出るようになった。私も初めての中体連の大会ということで抽選会へ行ってきた。中学校の先生の中に、外部の人が入って初めてそういうことを経験させてもらった。その時に感じたことが、学校の先生はこういうことをこういうふうにしなきゃいけないみたいな決まり事のようにやってらっしゃ

るところがある。私のような外部の人が入ると、それそうなのかなと感じるところがあり、外部の方がチームに入ってくると、チームの人たちがこういうふうにできるんじゃないかっていう提案ができるので、よかったらもっと提案させてくださいというふうに話をした。地域部活になれば、新しい風が入っていいのかなと感じた。

○事務局
ユナイテッドの件、障害者のスポーツの活動の件、部活動の件、再度細かいところを後で教えていただき、それぞれの関係部署と連携しながらできることを考えていきたいと思う。

●大坪委員
食育について、小中学生は６年度ぐらいから１人１台タブレットを持つという話になったときに、これは食育できるなと思った。学校栄養士さんの講義に行ったときに、食育をどんどんやれる時間帯がないと。調理師さんが作っている料理を当たり前に時間が来て食べているけど、それまでの過程っていうのを見せたりとか、農家に行って野菜を見たとかっていうような、そういう動画を作ったりもできる。昼休みにご飯を食べながら流してあげることもできるし、ちょっと肥満の方々に体力が足らないっていう時に、個人のタブレットに直接アクセスできることになるから、個人指導するときに全員の前で言うわけではないので良いと思っている。現在私はＬＩＮＥでやりとりしているが、５、６人の人に個人指導を週１とか月１っていう形でやっている。写真を送ってきてもらって、こう変えたらというふうなことやっているので、学校でも何かしらできる方法はあるんじゃないかなと。私がその個人指導をするときは、クラブの影響がある子などを選んでやっている状況。体力というのは、やはり食事と睡眠がすごく関連しているので、何かしらできるんじゃないか、チャンスじゃないかと思ったところ。
もう１つ、ユナイテッドのことで、観客平均2000人を超えないといけないことを県民は知らないと思う。だから、平均2000人以上いるんだ、Ｊリーグに上がれないんだっていうことをもっと広報していただいて、もっと県民がああそうかみたいな、今現状このぐらいだから何人いるんだとかっていうのがあると、もっと参加してくれる人が増えるかと思う。

○事務局
タブレットの活用については、教育委員会とも相談して、医科学のサポートのところで活用がどれだけできるのかっていうところを探っていければというふうに思っている。
また、広報の部分はしっかりやっていきたいと思う。

●大坪委員
医科学のところもそうですが、学校現場で学校の栄養士さんを上手く活用すると全員のところにいくので、ぜひそういうことも伝えていただけたらありがたい。

●常行委員
今回の推進計画を見て一番最初に思ったのは、10年前にはもう本当に縦割り行政みたいな施策であったものが、この数年で本当に横との連携がすごく充実した事業が増えてきたなということを非常に感じた。
一番予算的に大きいところが県立のスポーツ施設の整備というところで、私自身も何度も利用させていただいて、多分一番挙がってくるのが駐車場のことかなと。民間であればそのマイクロジムが単純なスポーツジムではなくって、ここでカラオケもできますよ、歯のホワイトニングもできますよとか、いろいろ別のサービスも巻き込んで若年層を集めるような努力をされてるなと感じる。これまでずっと長い間やってきたスポーツマニアの人たちだけではなくて、それ以外に今までスポーツに興味がなかった方が、ここを何か拠点に情報集められるとか、体験のプログラムがあるとか、ｅスポーツでもいいと思うんですけれども、リアルでなくても何かこうスポーツを感じられるような、そういった拠点になるのが今後の先進的な行政サービスとしていえることなのかなと感じる。私も遠隔で協力できる部分もあるかと思う。ぜひ一緒にやらせていただけたら嬉しいと思っている。

●刈谷委員
数量化したり見える化したりすることは、行政とか県民にとっても非常にわかりやすく、我々にとっても理解しやすいことで、ここに表れている数字で言えば、非常に頑張っている。今スポーツ庁で、資料があったように、2009年から30%ぐらいの部活が減っている。それの最たるものは高知県。そこの少子高齢化における危機感が少し足らないと思う。
それぞれの部署でそれぞれの組織で頑張っていると思うが、それでよしとするんではなくて、先ほど武市委員や矢野委員が言ったように、結局、貧困化によって子どもたちは分断される。そしたら、総合型地域スポーツクラブはとてもボランティアじゃないからまかなえない。子どもは、部活で丸抱えの部活をやってきた我々世代が外へ出されたとき、その金銭的な負担、誰がどこでするのか、誰も検討していない。総合型地域スポーツクラブに丸投げされても、できない子どもはたくさん出るよっていう指摘なんです。要するに分断化ですね。お金持ちの子しかクラブへ入れないんじゃないかというところを、我々は行政も含めてどう補填していくか。民間が協力するといった良い意見が出された。
また、いまだに、見えない部分の停留の部分と、全然出てない問題がハラスメント。スポーツにおける負の部分で、暴力行為やハラスメント行為は、高知県でないわけではない。だったら、その部分をどういうふうに対処し処理していくかっていう、セーブ機能をきっちり書き込んで欲しいと思う。何々が上がった、何々が良かった。そんな行政では駄目だと思う。しっかりとそこも書き込んで、これからの健全なスポーツ、健全な教育的営みであったり、経済促進させたりする営みであるというのは、しっかりと負の部分も書き込んでいただければというふうに感じた。

○事務局
しっかりと関係部署と連携し、全体で検討していきたいと思う。

●井奥副会長
新聞記事を読むと、世界パラ陸上の鬼谷選手なんか、信じられないような自己記録の更新ということで、本人がびっくりしていたみたいだが、それに至るには苦労があったということと併せて、記録が出たときには心技体の充実を感じたことなども報道されていた。
ちょっと気になるのは、尾下委員からお話のあった高齢者のスポーツ参加ということでいうと、うちのほうもシニアスポーツ大会と障害者スポーツ大会をやっている。シニアスポーツ大会の方は８割ぐらい、障害者スポーツ大会の方は６割ぐらい。一定戻りつつあるが、いったん競技になじむ場面が途絶えてしまうと、なかなか高齢者の方は特に重症化率が高いということもあって戻ってこない。オンラインの活用でうちの福祉交流プラザの貸室の稼働率は105%ぐらいと、すでにコロナ前を超えてます。講師の先生がきて、後は全部オンライン配信というふうな形式もあり稼働率は戻るが、施設の利用者人数としては戻らない。スポーツでもいろんな教室があるが、結果的にオンライン形式でやっていただくことで途絶えさせない事も可能であり、今取り組んでいる取り組みに引き続き取り組んでもらったうえで、スポーツに親しめる知恵をだしていただけるとありがたい。

○事務局
現状では重点施策として子ども、障害者、というところにウエイトを置いているが、高齢者のスポーツ活動も非常に重要なところなので、ご意見いただきましたシニア交流大会などとの連携というところについても、子ども・福祉政策部とも情報共有しながら、できることを考えていきたいと思う。

●青木会長
資料の中で、この新しい施設の整備に関する検討については、非常に心強く感じた。
いわゆる文化施設、そして、防災機能を含めたアリーナ施設、そういった観点で、特に最近はどこでも交通の便がいいところに建っている。郊外では使い勝手が悪いということもありますし、それから運営のための資金、つまり、持続可能性ということを追求すると、やっぱりイベントを含めた形で、収入をどう上げていくかということ。そういったことがこれからの課題ではないかと思う。
津波の心配はあるが、場所としてはいろいろ利便性の高い場所ではないかと思うので、良い議論を期待している。

## ３　閉会

以上

署名 青木章泰